

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (65) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(65)—

1. 始めに

前報(64)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もヴァイオリンソナタです。

PHILIPS SFX-9570~9572

モーツアルト ヴァイオリンソナタ 24 番ハ長調
 ヴァイオリンソナタ 28 番ホ短調
 ヴァイオリンソナタ 42 番イ長調
 ヴァイオリンソナタ 33 番ヘ長調
 ヴァイオリンソナタ 34 番変ロ長調
 ヴァイオリンソナタ 40 番変ロ長調
 ヴァイオリンソナタ 41 番変ホ長調

ヘンリク・シェリング (ヴァイオリン)

イングリッド・ヘブラー (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

シェリングとヘブラーという定番のコンビの演奏です。

シェリングのヴァイオリンは、端正でありながら、艶のある音で、よく歌わせています。

ヘブラーのピアノはピアノソナタと同様、抒情性にあふれたものです。
曲毎の表情の変化に対応し、両者が一体となってモーツァルトの世界を構築しています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、**Crystal E**の導入の交換などの総合的な効果として、シェリングのヴァイオリンとヘブラーのピアノが一体感となってモーツァルトの世界を構築していることが分りました。

以上